



オクラ部会 目慣らし会



南部営農経済センター
オクラ部会は7月17日、中央集出荷場で、オクラの目慣らし会を行いました。
同部会は、品質を保つため袋詰めにし通気性の良い専用のオクラ籠で出荷し、また、詰め方などについても品質安定のため、統一できるように確認や周知を行っています。

今年生産者39戸で、目標総出荷量は30.8トン、販売金額は3,180万円を計画しています。

出荷は10月下旬まで続く予定です。

勝占支所オクラ部会の谷信之部会長は「高齢化で年々、作付面積が減っている。今後、少しでも生産者が増えれば。」と話されました。

(写真 表紙は勝占支所オクラ部会・谷信之部会長、④は出荷準備を行う生産者の皆様)



直売所なっとく市場 大掃除



直売所なっとく市場は7月29日、大掃除を行いました。

朝早くから59名の出荷会員と生産者、職員が参加し、店舗内をはじめ、店舗周辺、側溝などを入念に2時間かけて清掃しました。

また、職員が清掃終了後に生産者への農薬使用時の確認について注意喚起を行いました。

なっとく市場会長の麻植孝浩さんは、「コロナ禍の為、参加を強要していませんでしたが、たくさんのお荷物、生産者の方々が掃除に参加してくれ、なっとく市場への皆様の愛情を感じました。withコロナと言われるように、ウイルスと共存する社会になってきつつありますが、健康には留意し元気に頑張りましょう。」と集まった方へ挨拶されました。

なっとく市場では、3月の米の売り上げが前年比の125%でした。これは県内の学校が3月2日より全校休校になったため、家庭内での米の消費が高まった要因と考えられます。

なっとく市場 中村朋生店長は、「これからも地域、消費者へのくらしに寄り添える直売所として出荷会員、生産者と一丸となり精進していきたい。」と話しました。

グリーンハウスみかん初出荷

果樹選果場では、7月20日からグリーンハウスミカンの出荷が始まりました。

品質統一を目指して営農指導員や販売担当者、選果場の従業員が出荷前に目慣らし会を開きました。ハウスみかん部会のグリーンハウスみかんの9戸の生産者は、病害虫防除や水管理などに気を配り、高品質出荷に努めています。

今年総出荷量52トンを計画しており、出荷は9月下旬まで続きます。

洪野町の速水聡さんは「グリーンハウスみかんは元々甘く、冷蔵庫で冷やすとさらに甘みが増します。ほどよい酸味が暑い時期には爽やかで、おいしく食べられます。」と夏にピッタリな食べ方を紹介されました。

(写真はグリーンハウスみかんを選果する生産者と職員、従業員)



連載vol.2 “ほなけん、がんばるんじょ”

「妻と一緒にだからやってこれた。」

橋本浩二さん(国府町)



国府町の橋本浩二さんは就農して今年で13年目、経営を引き継ぎ3年目になる。「酪農」といえば「乳搾り」を思い浮かべるが、哺乳類は文字通り、赤ちゃんが産まれて初めてお乳が出る。牛に産んでもらってこそ、お乳が搾れる。浩二さんは、家畜人工授精師や受精卵移植の資格を取得し、自ら種付けを行うことで、受胎率を上げ、自家産で優良な血統を選別してきた。猛暑で牛の体力が衰弱する時期は産産を避ける等、現在、約乳牛70頭、和牛20頭の管理をパソコンでデータ化し、年間を通して総合的なスケジュールに取組んでいる。

現在、妻・典子さんと共に主な作業を行っている。典子さんとの出会いは20代の頃。当JAで金融渉外員をしていたとき、取引先に典子さんが勤務していた。結婚した当初、「定年までJAで勤める」と言っていた浩二さん。しかし、典子さんが次女の産休中にも関わらず、両親の酪農仕事を積極的に手伝ってくれる姿を見て、浩二さんは身の重典子さんの体を心配し、帰宅後は一緒に手伝うようになった。その頃から典子さんと2人なら、きつと家業を継ぐことができるかと確信した。当時、浩二さんの覚悟を聞いた典子さんは「夫が決めた道を私はついていくだけ。」と伝えた。その言葉が今でも耳に鮮明に残っているという浩二さんは、「一生忘れないし、死ぬまで感謝していくと思う。」と妻を労う。典子さんは、「牛への愛が強く、今ではとにかく牛が可愛い。「猫のように体の表面を擦り付けてジャレてくるんですよ。」と笑顔で話す。



一番、達成感を感じるとき
「分娩が終わって母子共に無事だったとき」と二人は口を揃える。年間40頭のお産に立ち会ったが、出産まであと1ヶ月という時に死に至るケースもある。産まれてきた子牛が首を持ち上げて、「メエー」という産声をあげる。その瞬間にホッとする。(「メエー」ではなく「メエー」だそう。)

安心・安全・美味しいものを消費者に届けたい
年間36回の乳質検査がある。橋本さんは昨年度、徳島県酪農協同組合の「優良乳」の表彰を受けた。これからの管理を徹底し、「自信を持って提供できる生乳」を作りたいと夫婦一丸となつて努力を続ける。

酪農は父・勝さんが時流を捉えて、夫婦二人三脚でここまで形を築いた。経営を引き継いでますます両親の苦勞と偉大さを実感している。

酪農は365日勤務の体力勝負。代わりが居ないからこそ自身の健康管理が重要。

また、牛は縦社会で感情もあり、個体により性格も違うため、しっかり観察しなければならぬ。生き物であるがゆえの「生と死」に直面する仕事でもある。



花卉部会 菊生産者 圃場巡回

花卉部会の菊生産者は7月15日に圃場巡回を行い、8月上旬から始まる出荷に向けて、今後の栽培管理などの確認をしました。

現在、主に栽培されている品種は「精州」(せいしゅう)、「精菱」(せいびし)など。

梅雨明けには急激に気温が上がるため、高温障害の対策として灌水をしっかりと行い、管理作業を重点的に行うように注意喚起がありました。

今年は、ベトナム、中国、マレーシアなど国外からの流通が少ない傾向にあるため、価格が上昇しつつあります。

生産者の麻植孝浩さんは「コロナ禍なので、需要期に出荷して高価格を目指したい。」と話されました。



阿波の味覚「すだち」の魅力を再発見! 四国放送ラジオに井河部長と里工場長が 生出演しました

7月26日、富農経済部井河部長と農産工場里工場長は四国放送ラジオ「中四国ライブネット」に生出演し、中四国へすだちの魅力アピールしました。

番組の中で里工場長は、汁をしぼるときに種が落ちにくくする切り方、また新鮮しぼり「すだちしょうゆ」のおすすめの使い方として「たまごかけご飯」をスタジオの方々に試食していただき、普段の食事でもすだちを使うだけで、食材がワンランクアップすることを紹介しました。

井河部長は、すだちを全国により親しんでもらうため、長年、売り込みを進めてきたなかで一番印象に残っていることとして、全国チェーン「なか卯」の「すだちおろしうどん」の開発に携わったことをあげ、電話にて東京から特別出演していただいた、ゼンショーホールディングスの取締役商品部長の須田壮一さんと、今後も全国にすだちの魅力発信し続けていくことを話されました。

番組の終わりにはスタジオで「すだちシャンパン」「すだちジントニック」など、すだちと相性の良いお酒や炭酸などが用意され、可能性を秘めたすだちの未来に向けて乾杯し放送が終わりました。

(写真…前列⑥徳島大学大学院代謝栄養学講師 堤理恵さん、⑦野口七海アナウンサー、後列⑧徳島県もろかるブランド推進課 徳永忠士さん、⑨里工場長、⑩井河部長)



新甘藷掘り開始

川内町の加根敏之さんは7月29日から新甘藷掘取りを本格的に開始しました。

190㍓を栽培しており、4月12日に定植した甘藷を猛暑が続く中、明け方を中心に作業し、圃場に関する処理機をかけた掘取り機で収穫し、入念に選別します。

東部営農経済センター川内甘藷部会は、生産者138戸が140㍓で栽培しており、現在の掘取りでは小ぶりですが平年並みの収量で色のりも良く、高品質。

早掘り甘藷は9月までの出荷で、10月からは貯蔵甘藷に切り替わります。総出荷量約65万ケース（1ケース5㍓）9億円の出荷販売を計画しています。

昨年度産から輸出への取り組みを開始し、新たな販路を拡大しました。好評で有利販売に繋がったため輸出货量を増やす予定。

甘藷は、嗜好品であるためコロナウイルスの影響により販売価格が落ち込む不安がある中、加根敏之さんは「情勢はどうすることもできない。生産者としてできることは、高品質なものを作ること。ただ、それだけに徹したい。」と話されました。

（写真は機械で作業できない隅部分を手ぼりする加根さん）



空いた時間を活用し、農作業のアルバイトができる方を大募集しています。

作業内容 さつまいもの農作業全般(収穫・毛取り・調整・箱詰め等)

募集期間 随時募集しています。(農家との相談により決定) 農家により求人期間や作業は様々です。まずは、ご相談ください。

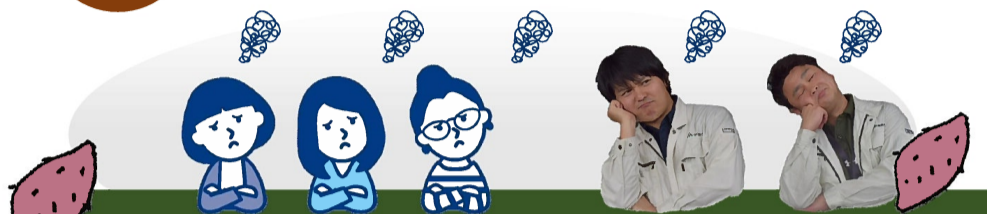
勤務場所 J A 徳島市川内支所管内

勤務時間 農家との相談により決定します。



シリーズ Part.3 困った 東部営農経済センター

Part.3



さつまいも農作業の人手を探しています。

賃金・休日等も農家との相談により決定します。試用期間もありますので、興味のある方はご相談ください。

お問い合わせ先

JA徳島市農作業無料職業紹介所

〒771-0142 徳島市川内町沖島257



088-665-0921 (受付は月～金曜日の9時～17時まで)

担当:JA徳島市 東部営農経済センター内 無料職業紹介所まで

経営継続補助金・高収益作物次期作支援交付金説明会に延べ1,000人が参加



当JAは6月29日より全営農経済センター及び、全支所にて、組合員に向けての経営継続補助金と高収益作物次期作支援交付金の個別相談窓口を開設しました。

7月7日は本所にて、農林水産省 中国四国支局による経営継続補助金説明会を開催し、160人の参加がありました。より多くの方に参加していただけるよう、4部の時間帯に分け、各会30～50人ずつで説明会が行われ、同時に三密防止を徹底しました。

説明会では個別相談の受付案内と高収益作物次期作支援交付金支所説明会の開催についても周知を行い、後日、各センター、各支所の相談窓口には、1日あたり10～30件ほどの相談者が来所され、職員と一緒に申請手続きを行いました。

また、高収益作物次期作支援交付金の説明会は、交付対象者を中心に7月10日から8月4日までの間、全支所で開催され、15支所で延べ828人の参加がありました。

説明会を行った営農経済部 田中徳昇次長は「農家組合員を対象とした国政の支援事業についての制度説明や手続きのお手伝いを可能な限りさせていただきスムーズな申請を行っていただければ」と話しました。

(写真は7月7日本所にて農林水産省 中国四国支局 担当者による説明会)

ナス 剪定研修



北部営農経済センター経済課 多田辰裕職員は7月22日、職員と生産者を対象としたナスの圃場研修を行いました。

職員が生産者と共に剪定技術を覚えることで、作業の難しさや生産者の苦労を実感し、今後の職務や活動に繋げてもらうことが狙いです。南部営農経済センター経済課の高橋和輝職員と中央集出荷場の高橋知希職員が参加し、今年から初めてナスの栽培に取り組む佐那河内村の木内良樹さんの圃場にて剪定方法の説明、実地体験を行いました。適切な剪定を行わなければ収穫量が激減してしまうこともあります。花が咲いたら先端を摘みし着果させ、収穫したら枝を軽く切り戻し、再び、わき芽が伸びて花が付き、これらを繰り返すことにより秋まで収穫が可能となる重要な作業です。

指導を受けた高橋和輝職員は初めてのナス剪定に、「生産者の方が大切に育てたものなので、切り落とすのは、遠慮してしまいます。」と話しましたが、多田職員は「目の10円より先の100円。梅雨明けの時期は日照不足で収穫量が減っているの、剪定には良いチャンス」と潔く剪定を行うように指導をしました。



佐那河内村 木内良樹さんの圃場にて

7/22

勝占支所オクラ部会 谷部会長の圃場にて

7/21

7/20

佐那河内圃場にてすだちの摘果指導をする長谷部職員



皆さん、こんにちは。徳島往診クリニックの吉田です。7月31日現在、国内の新型コロナ感染者数は3万4809人となっていて、さらに心配なのが1日の感染者数が1301人と過去最高を更新し続けていることです。新型コロナもインフルエンザと同様にウイルスの仲間ですので、インフルエンザの流行期と同じように増えることは仕方がないことかも知れません。ただし大きく違うのは、高齢者や持病のある方に感染させてしまうと重篤な、そしてしばしば命にも関わるようなウイルス性肺炎を起こしてしまうことです。

新型コロナウイルス感染者数が増えると共に感染経路が不明な例も増え続けています。当初はクルーズ船の乗客や海外渡航歴・同患者との濃厚接触の有無等から感染を推測することが可能でしたが、現状ではそういったことが無関係になってきています。そのため一般外来で遭遇する発熱・咽頭痛や咳などの上気道炎症のある患者さんが新型コロナウイルス感染症なのか普通の「風邪」なのかを、PCR検査の結果を待たずに鑑別することは困難です。（実際、今までの通常のコロナウイルスは普通の「風邪」症状を引き起こすものでした）そのため、新型コロナウイルス感染と診断されるまでに複数の医療機関を渡り歩くことは珍しくありません。東京歯科大学市川総合病院呼吸器科では、新型コロナ肺炎6症例を詳細にまとめ論文報告されています。それによりますと、家族に体調不良・発熱を認めた方が6例中5例で、症状発現から診断までの日数は5日から11日かかっており、診断までの受診回数も2～3回と複数回になっています。6例中に4例以上認めた症状は、38℃以上の発熱・咳・倦怠感でした。胸の聴診で雑音を認めた方は1例しかなくその方はSpo2（動脈血の酸素飽和度）が80%と大きく下がっていました。血液検査ではいずれの症例も白血球増多がなく、5症例でリンパ球が減っていたことが特徴的で、CRPという炎症の数値も4例では軽度の上昇にとどまっています。胸部の普通のレントゲンでは異常を指摘することが難しい症例もありましたが、CTでは全ての例で異常＝両側、多発性のスリガラス様の影を認めました。

以上から、①同居者に体調不良・発熱の方がいる ②38℃以上の発熱 ③血液検査でCRP上昇が軽度で白血球数が正常でもリンパ球が減っている場合には普通の胸のレントゲンだけではなく胸部CT検査を積極的に受けて、特徴的な影がある場合には直ちにPCR検査をお願いしましょう。

お知らせ

本誌「びざん」がHPにて閲覧、ダウンロードできるようになりました。

本誌が新しく発行されましたら、トップページの「新着情報・イベント情報」にて、最新号のお知らせが掲載されます。

また、2020年7月号以降に発行されたものも閲覧ができます。これからも、組合員の皆様にとってより良い情報の発信ができますように努めて参りますので、今後ともよろしくお願いいたします。



理事会だより(令和2年7月31日)

協議事項

- (1) 令和元年度末監事監査回答書について
- (2) ディスクローチャー誌の開示について
- (3) 不稼働・遊休資産の処分について
- (4) 出資口数の一部減口について
- (5) 不良債権の回収について
- (6) その他

報告事項

- (1) 第1四半期の余裕金運用状況報告について
- (2) 第2四半期の余裕金運用方針について
- (3) 系統BISモニタリングに関する報告書
- (4) 債権回収について
- (5) 事務リスク管理規程に基づく事務ミス等の発生状況・自主検査の結果および改善状況について
- (6) 苦情等の受付対応実績報告について
- (7) 反社会的勢力との取引排除および疑わしい取引の届出等組織犯罪等の防止にかかる対応状況について
- (8) 入札結果報告について
- (9) JAバンク基本方針に基づく「体制整備モニタリング報告」について
- (10) 再発防止策の取り組み状況について
- (11) 営業店システムの導入スケジュールの変更について
- (12) 営農経済事業改革について
- (13) 営農経済事業の成長・効率化プログラムについて
- (14) その他

島田清弁護士無料法律相談

通常どおり開催いたしますが新型コロナウイルスの感染状況によりましては開催できない場合もございます。

日時 第3土曜日 9:00～12:00

申込先 金融共済部へ事前に予約が必要。
088-622-8003

場所 本所1階金融相談室

賀上延啓税理士事務所の無料税務相談

※下記の通り開催予定ですが、新型コロナウイルスの感染状況によりましては、開催できない場合がございますのでご了承ください。

日時 9月1、15、29日
9:30～15:00

申込先 総務部へ事前に予約が必要。
088-622-6335

場所 本所1階ローンセンター

